

佐伯利彦議員



(議案質疑)

- 1 サステナブルツーリズム推進事業について
 - 2 にご指導教室事業について
- (一般質問)
- 1 子育て世帯に選ばれるまちづくりについて

のか。また、今後、どのように取り組んでいくのか。

答

1日当たり約9千食を提供する学校給食のうち、週に3回提供している米飯給食に必要な米は年間約80トンであり、全て地元西条産米を使用している。

学校給食米の調達には、安定的な玄米の確保、高性能な精米施設や確実な配送体制などが確立されている必要があるため、安定供給や安全性の面から、公益財団法人愛媛県学校給食会から全量を購入している。

学校給食への導入に向けた庁内の関係部署による研究・

減農薬米を学校給食へ

導入する考えは？

問 人口減少や少子化が予想を上回るスピードで進む中、人口を増やす取組として、若者や子育て世帯に選ばれるまちづくりを実践し、多くのかたに移り住んでもらう必要があると考える。

選ばれる要素の一つとして、学校給食に西条産の減農薬米を使用する取組が考えられるが、導入に向け、これまでどのように研究・検討してきた



地元産で安全・安心な食材の提供を目指して

検討を行う中で、市内でも減農薬米が一部作付けされていることは承知しているが、学校給食米としての使用については、現状、安定的な米の確保や調達が難しいと考えており、県学校給食会との調整など、今後の可能性について引き続き検討することとしている。

現在、令和7年9月の供用開始に向けて、(仮称)西条市東部給食センター整備・運営事業を進めており、今後は、新給食センターの運営方法や食材調達についても専門部会などによる検討を進めることとしている。

本市が目指す持続可能で安全・安心な学校給食体制の確立に向けては、安全・安心な食材の調達や食育、地産地消の推進がたいへん重要であると考えており、まずは新給食センターのスケールメリットを生かした地産地消のしくみ作りについて、関係機関や民間事業者を交えた協議を進める中で、学校給食における減農薬米の使用についても今後研究課題の一つとして検討していきたい。

藤井武彦議員



(一般質問)

- 1 海洋へのごみ流出について

清掃ボランティア団体に

支援を！

問

昨今、海洋ごみの中でも増え続ける海洋プラスチックごみは世界的な問題となっており、環境省によると、海に流れるプラスチックは少なくとも年間800万トンで、現在は1億5千万トンのプラスチックが世界の海に漂っており、何もしなければ、ごみは増え続け、海洋プラスチックごみの重量が魚の重量を上回ると思われる。また、人体への影響も懸念されており、汚染された魚を食べることで、がんや代謝性疾患の発症を引き起こす可能性のある化学物質が検出されるなどの

報告があり、海洋生物のみならず、人間が大きな代償を払わなければならないことが明らかになりつつある。このような状況の中、漂着ごみと漂流ごみについて、どのように認識しているのか。

また、美しい海を守るためには、環境に対する意識の向上が求められ、一人一人がごみを減らす努力がたいせつである。清掃活動に参加することで、海洋ごみ削減に対する意識の醸成が図られると思うが、清掃ボランティアなどへの支援や海洋ごみの削減に向けた対策及び市民に対する意識啓発に、どのように取り組んでいくのか。



高須海岸清掃ボランティア活動